

News Letter

演習林長あいさつ

附属演習林長 古田裕三

京都府立大学附属演習林は、本学下鴨キャンパスのある京都市内に4箇所、南丹市に2箇所の計6箇所あります。歴史は古く1902年（明治35年）に設置され、今年で122年になります。国内では東京大学、北海道大学に次いで3番目に古い演習林であり、公立大学では演習林を有する唯一の大学です。



本学は令和6年4月1日から生命環境科学部森林科学科を環境科学部森林科学科と改組しており、附属演習林は「学生のための森林科学の教育の場」「森林科学に関する試験研究の場」という設置目的に基づいて運営を行っています。

世界に目を移しますと、2015年のCOP21で採択されたパリ協定を受けて、我が国は2050年のカーボンニュートラル実現に向けた取り組みが進められているところです。

本学では教育研究等の活動を通じて大学キャンパスを推進するため、令和5年7月にゼロカーボンキャンパスリアリションに参画したところであり、附属演習林の活動による森林吸収対策の取組状況について情報発信していきたいと考えております。その一つがニュースレターの創刊です。高校生や府民の皆さんを対象とした演習林野外セミナーやシンポジウムの開催など伝えていきたいと考えています。しかし、附属演習林だけの取り組みでは限界がありますので、学生や教員に加えて行政や地域の皆さんとともに進めていきたいと考えていますので各方面の皆様方のご理解とご協力をお願いします。

若手教員自己紹介

森林計画分野 准教授 中田康隆

2022年4月より京都府立大学大学院生命環境科学研究科に着任し、2024年4月からは演習林運営委員を兼任することになりました。本学に着任するまでには、民間や行政での経験を幅広く積んだ上で研究者になりたいと考え、修士課程修了後に建設コンサルタント会社に就職し、環境アセスメントや植生管理計画の策定を経験しました。その後、行政機関の土木技師として、土砂災害の復旧工事や土木施設の設計・施工管理等を担当しました。その後、博士号を取るべく、大学院の博士後期課程に進学し、2019年3月に学位を取得しました。ここで、ドローンやレーザーを用いた測量技術による3次元で高精細な地表面情報の取得や解析方法を習得しました。その後は、北海道立総合研究機構林業試験場にて研究職員として勤務しておりました。これまでの研究では、多次元の高精細地表情報を活用し、主に山地から海岸に至る流域内の地表攪乱と植生の関係を対象に研究活動に従事してきました。今後は、演習林を活用し、「流域（山地～海岸）の生態系や森林を対象とした評価・計画」、「地震等の大規模攪乱後の植生回復（草本～森林）の評価・計画」、「最新の計測技術を用いた森林等の生態系の評価・計画・管理へ応用」の3本柱で研究及び教育活動に邁進したいと考えております。



新人職員あいさつ

演習林事務室 主事 岸大地

2024年4月より京都府立大学環境科学部附属演習林事務室に主事として配属になりました。2018年に森林科学科に学生として本学に入学し、森林生態学研究室で修士課程まで樹木の枝葉構造とそれが成立するメカニズムについて研究してきました。具体的にはサカキの枝の分岐と葉などのバイオマス蓄積との関係について、また、光などの環境要因がそれらに与える影響について、大枝演習林を調査地として研究していました。修了後の進路に悩んでいたところ、縁あって昨年度から募集が始まった本学のプロパー職員として採用していただくことになりました。学生の頃とは違う立場からは、同じ大学にいても見える景色が少し変わったように感じます。事務職として勤務することになりますが、つい半年前まで学生として、研究や森なかまのサークル活動などで頻

繁に演習林を利用させていただいていた経験を活かし、「現場も行ける事務職員」として積極的に演習林内での作業にも携わっていききたいと考えています。私が在学中はコロナ禍で宿泊実習などは殆どありませんでしたが、今の学生たちに少しでも自分の経験や知識を伝えていきたいです。先生方や学生とのつながりを大切にして、演習林の円滑な運営に貢献していければと思います。よろしくお願いします。



受賞の記録

森林資源学 准教授 神代圭輔

神代准教授が令和5年度日本材料学会支部功労賞を受賞されました。受賞課題「日本材料学会関西支部の活動活性化ならびに木材物性と木質材料に関する研究への貢献」神代准教授は、一貫して木材および木質材料の材料特性および材料製造技術に関する研究開発に従事されています。とりわけ、金属やプラスチック等の他材料と同様、天然高分子複合材料である木材における非平衡状態における木材の微細構造変化と物性の関係解明に関する研究に積極的に取り組まれるなど、木材の構造－物性相関の深化に向けて今後の研究発展も大いに期待されています。また、木質材料部門委員会の幹事、廃木材や廃プラスチック等のリサイクル材料を原料として複合化した木材・プラスチック再生複合材（WPRC）の標準化（JIS化およびISO化）において中心的な役割を果たすなど、木質材料の標準化にも長年に亘り貢献されています。さらに、関西支部常議員、関西支部庶務幹事を務められるなど、中心的な立場で関西支部の運営に注力されるとともに、企画・広報委員会担当委員、代議員も務められるなど、支部活動と学会本部活動の両方の推進に貢献されてこられました。

以上のように、木材物性と木質材料に関する研究業績と、関西支部の運営および活動活性化に関する貢献には多大なものがあると評価され、日本材料学会支部功労賞の受賞となりました。

〈神代先生コメント〉

この度は、日本材料学会支部功労賞を受賞することとなり、身の引き締まる思いです。これまでご指導いただいた先生方、連携させていただいた方々、研究室の学生諸氏など関係の皆様には厚く御礼申し上げます。引き続き、木材の構造－物性相関研究の更なる深化を通じて樹木としての木材物性発現機構の解明に取り組んで参りたいと考えております。今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



活動の記録（4～9月）

○シンポジウム等

ゼロカーボンキャンパスWG
(6月21日(金) 稲盛記念会館)

○学内実習等

- ・新入生合宿研修
(5月17日(金)～18日(土) 大野演習林)
- ・森林科学総合実習Ⅱ
(5月21日(火) 久多演習林)
- ・森林科学基礎実習
(7月5日(金) 下鴨キャンパス樹木園)
- ・森林科学総合実習(公開森林実習を兼ねる)
(9月2日(月)～6日(金) 大枝演習林)
- ・環境共生フィールド実習
(9月18日(水)～20日(金) 大野演習林)

○セミナー等

令和6年度演習林野外セミナー 高校生対象
『大学の森・森林科学野外実習@大野演習林』
を7月20日(土)に大野演習林で開催しました。

当日の参加者は25名で森林科学科教員等と共に南丹市美山町脇谷の大野演習林に大学バスで向かい、3班に分かれ、以下のプログラムで野外実習を体験しました。

◇森林科学科・演習林紹介(講師：隅田教授)

◆木材加工施設見学(講師：神代准教授)

◆溪流・溪畔林解説(講師：三好准教授)

◆森林散策・植生解説(講師：平山准教授)

◆ドローン模擬飛行(講師：中田准教授)

当日は雨天が予想されていましたが、セミナー終盤に少し天気は崩れたもののプログラムには影響なく無事にセミナーを終えることができました。

大学の樹木の紹介

フウの木

今回は府立大学の構内に生育している樹木について、紹介します。フウの木は、体育館の南にあります。

原産は中国南部、台湾でフウ科の落葉広葉樹で街路樹や公園に植えられており、高木で20mを超えるものもあります。トウカエデに似ているため、カエデの仲間間違えられることがあります。異なる点は実などいくつかありますが、フウ



遠景



葉の様子

の木は互生ですがカエデは対生です。どちらも秋のこれからの時期には美しく紅葉します。



セミナー後のアンケートでいただいた感想の一部を紹介します。

○森林科学についてより広く知ることができて良かった。

○先生方が楽しそうに解説していたので、ますます森林科学科に入って授業を受けたいという思いが強くなった。

本学教職員と参加者の交流を通して、森林科学科・演習林への興味関心を深めていただけたものと思います。